

日本橋ダイヤビルディング



江戸橋上からの外観(既存建物創建時)



江戸橋上からの外観(再生前)



船橋状塔屋(既存建物創建時)



船橋状塔屋(再生後)



江戸橋を望む(既存建物創建時)



江戸橋を望む(再生後)



フラットスラブ(再生後)



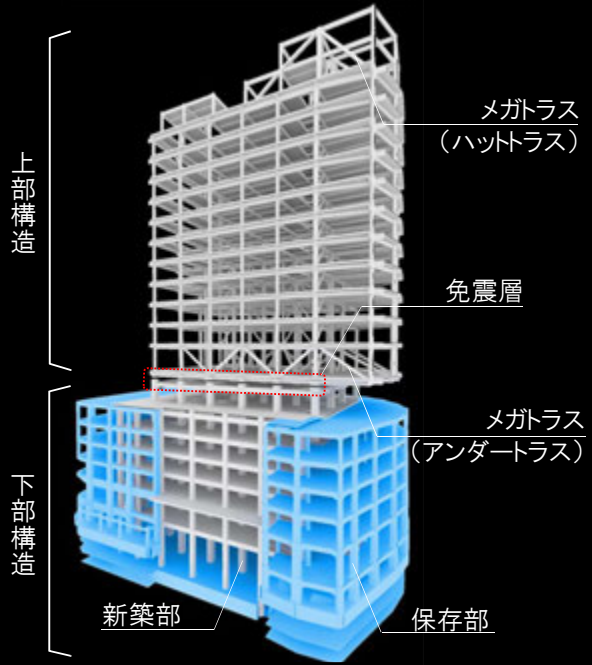
フラットスラブ(既存建物創建時)



RC丸柱+ハンチ梁(再生後)



RC丸柱+ハンチ梁(既存建物創建時)



建物概要

建物名称	日本橋ダイヤビルディング
所在地	東京都中央区日本橋一丁目19番1号
建築主	三菱倉庫株式会社
設計	株式会社 三菱地所設計(意匠・設備) 株式会社 竹中工務店(意匠・設備・構造)
設計監理	株式会社 竹中工務店
施工	株式会社 竹中工務店
面積	建築面積 2,518.00㎡ 延床面積 30,029.44㎡
階数	地上18階、地下1階
最高高さ	89.9m
用途	事務所
構造種別	SRC,RC,S造

「日本橋ダイヤビルディング」は、三菱倉庫江戸橋倉庫ビルの再開発計画で、既存建物(昭和5年竣工)は、「東京都選定歴史的建造物」に選定(2007.03)されており、この地の特徴的な景観要素となっていることや、特定街区により容積割増を受けていることから、「保存建物と超高層建物の共存、共生」をテーマとしている中間層免震建築物である。高さ制限下で必要延床面積を確保するためには、新築超高層部分での1フロア当りの面積を拡大する必要がある。一方で、「既存建物を広範囲に保存すること」も必須条件であり、かつ6階建の保存建物に超高層部分を支持させることはできない。そこで本建物の上部構造には、上下2か所のメガトラスによる「オーバーハング架構」を採用し課題解決を図った。

また、通常であれば、保存建物部分と新築部分をEXP.JIにて縁切りすることにより、それぞれを構造的には、独立した建物として設計を行うことが考えられるが、建築計画上、様々な制約条件が課せられてしまう。これを解決し、限られたスペースを有効に活用するため、下部構造においては、「保存部と新築部を構造的に一体化する」ことでEXP.JIを必要としない建物としている。

さらに「オーバーハング架構」を有する上部構造と「保存部分と新築部分を一体化する」下部構造を「中間層免震」にて連結することによって、上部下部共に地震時の応力負担を低減し、歴史的保存部と最新鋭オフィスの共存・共生する安心・安全な建物として実現することができた。